



KITOKU SHINRYO

第58期
事業報告書

平成17年1月1日～平成17年12月31日

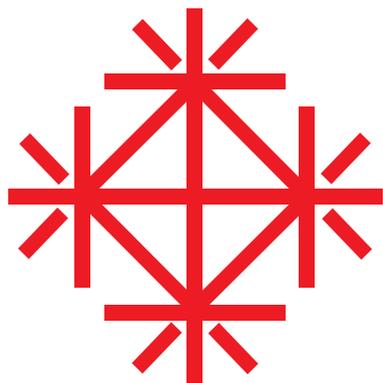
木徳神糧株式会社

<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>



トップインタビュー

Top interview



【企業理念】

誠意と感謝の気持ち
クオリティの追求
新しい価値創造

contents

- P01 トップインタビュー
- P03 木徳神糧アレコレ通信
- P05 財務ハイライト
- P06 事業の概況
- P07 連結財務諸表
- P09 単独財務諸表
- P10 株式の状況／会社概要

58期の業績に加え、木徳神糧が取り組んでいる経営課題の具体的な成果と今後の経営課題について木村社長に聞きました。

Q 58期の業績結果についてお聞かせください。

当期における日本経済は、引き続き景気は回復傾向にありましたが、定率減税の廃止をはじめとした税制改正論議や社会保険料負担増の不安などから、個人消費は依然として先行き不透明な状況にあります。

米穀業界におきましては、改正食糧法の施行に伴う米流通の自由化の進展、15年産米価格の乱高下などの影響を受けた大手米卸会社の経営破綻、全農県本部による米の不正取引など、大きな問題が発生いたしました。精米消費量が依然として減少基調にあるなかで、消費者の低価格米志向、厳しい販売競争の継続から米卸会社は総じて収益性を悪化させており、極めて厳しい経営環境にあると言えます。

当社グループは、米穀事業の収益力回復を最優先課題として営業力の再生、企業体質の強化に取り組んでまいりました。この結果、当期の連結業績につきましては、売上高95,437百万円、営業利益666百万円、経常利益532百万円、当期純利益290百万円となりました。

Q 営業力の再生と企業体質強化の具体的な成果をお聞かせください。

営業力の再生については、関西支店にて滋賀工場の運営を再開し、岡山県にある連結子会社の備前食糧(株)とともに西日

本エリアでの販売強化に取り組み、新規顧客の獲得を進めております。

付加価値商品として販売に注力し実績をあげているたんぱく質調整米「越後」シリーズは、ご飯タイプ、米粒タイプに加え、おかゆ、せんべいの発売を開始しました。たんぱく質調整米の市場は、これからさらに拡大の余地があると見ています。

企業体質の強化という点では、五つの過剰（過剰在庫、過剰投資、過剰債務、過剰人員、過剰経費）の一掃に向けて取り組みを進めました。仕入管理の徹底により在庫圧縮につながり、57期末に6,514百万円であったたな卸資産は、当期末では3,888百万円と大幅に減少し、また、有利子負債につきましては、57期末に23,284百万円に達していましたが、当期末では17,554百万円となり、5,730百万円の減少となりました。在庫、債務についてはある程度の成果が残せたと思います。

このような厳しい経営環境のなか、木徳神糧としてのこれからの経営課題をお聞かせください。

当社の主力事業である米穀事業は、少子高齢化の進行、食形態の変化などにより必需品消費財としての主食市場の衰退、低価格化の環境が継続するものと考えますが、一方では、選択品消費財としての米関連商品のバリュー拡大も進んでいくものと考えます。

また、当社の主要な仕入先である全国農業協同組合連合会（全農）の米穀事業改革など、当社を取り巻く環境は大きな変化が続きますが、当社は、精米製造・卸会社として、製造コスト競争は避けて通らず、今後予想される米卸業界の淘汰の中で優れた地位を獲得していくとともに、卸機能の質的向上

を図り、消費者、生産者をより近くに結びつける役割を果たすことが重要な課題であると認識しております。

この課題を実現するためには、企業体質の強化は不可欠であり、取り組んでいる改革を継続するとともに、企業価値を向上するための諸施策を実行してまいります。

最後に株主の皆さまへメッセージをお願いします。

当社は株主の皆さまへの利益還元の実現を図り、安定的な配当を業績に応じて維持することを基本方針としており、当期の利益配当金は1株につき3円とさせていただきます、すでにお支払いした中間配当金1株につき2円とあわせ、通期の配当金は1株につき5円となります。

今後は、景気の緩やかな回復が見込まれるものの、当社にとっては依然として厳しい状況が続くものと思われまます。59期につきましては、減損会計の適用により大きな評価損失を計上することになりますが、営業面での利益拡大のため、グループ一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

木村良





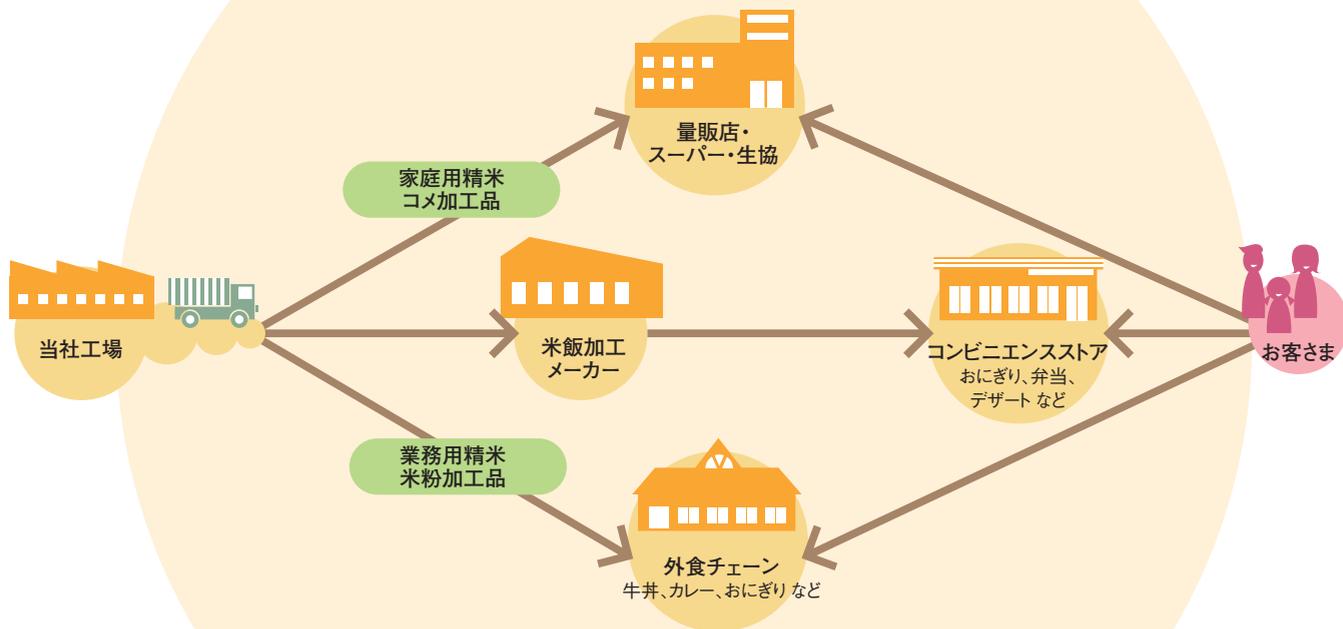
木徳神糧のココが知りたい!? Q&A



木徳神糧の主力は米穀事業であります、
日ごろ私たちがあまり商品を見かけないのは、なぜでしょうか？



当社のお客さま相談室には、このようなお問い合わせの電話やメールをいただいております。ここで、図を用いて当社の商品の流れを、皆さまに分かりやすくご紹介いたします。



このように、当社はイトーヨーカドーをはじめとする大手量販店やスーパー、生協などに小袋入り（2キロ、5キロ、10キロ）の精米を供給し、一般消費者の皆さま向けに店頭で販売させていただいております。また、セブン-イレブンをはじめとするコンビニエンスストア、吉野家、松屋などの大手外食チェーン向けには、業務用精米を供給しております。つまり、店頭で当社の精米商品をご購入いただいたことがない方でも、きっとコンビニエンスストアや外食チェーン店で当社のお米を召し上がったことがあると信じております。

株主アンケートを実施いたします。

当社では、株主の皆さまとのコミュニケーションを図り、より良いIR活動を展開するため、株主アンケートを実施いたします。

お手数ではありますが、本事業報告書に同封されているアンケートハガキにご記入いただき、5月末迄にご返信いただきますようお願いいたします。

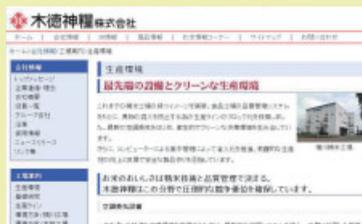


ホームページをリニューアルいたしました。

当社に関する情報をより多くの方にお知らせし、またお米についての知識を深めていただくために、ホームページに新しいコンテンツを追加してリニューアルいたしました。



IRリリースや決算短信、決算説明会資料、事業報告書のバックナンバー、その他株主さま向けの情報などが開示されています。



生産環境、基礎研究、生産ライン桶川工場と本牧工場の環境方針をご紹介します。



簡単なレシピやおいしいお店紹介。お米にまつわる情報を集めました。



商品ラインナップ、おすすめ商品や無洗米をもっとおいしく食べていただくための情報を掲載しております。

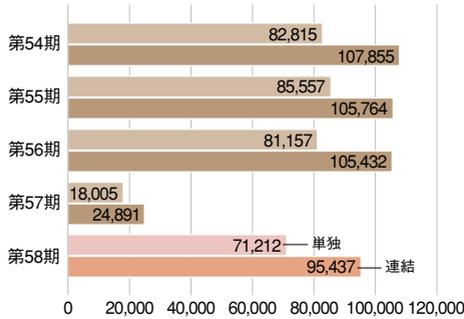
<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>



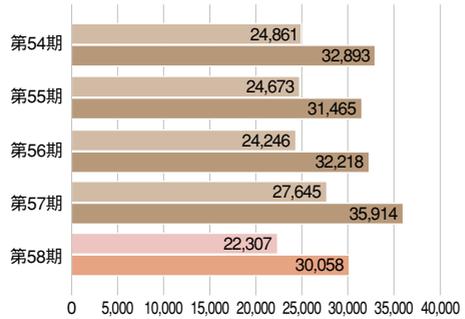
財務ハイライト

Financial highlight

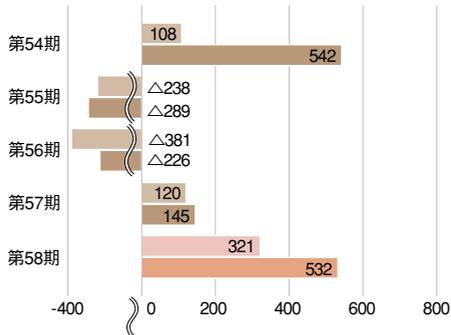
● 売上高 (単位：百万円)



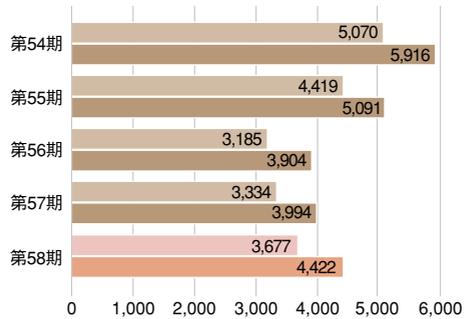
● 総資産 (単位：百万円)



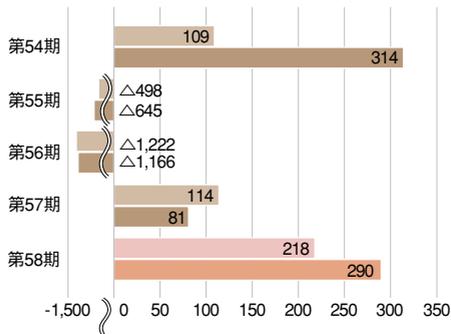
● 経常利益 (単位：百万円)



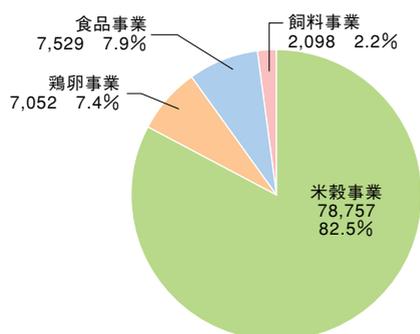
● 株主資本 (単位：百万円)



● 当期純利益 (単位：百万円)



● 連結売上高構成比 (当期 単位：百万円)



(注) 1. 決算日を従来の9月30日から12月31日に変更したため、第57期は平成16年10月1日から平成16年12月31日までの3ヶ月決算となっております。
 2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



事業の概況

Business review

米穀事業

米穀業界は、16年産米作況指数が98「やや不良」となりましたが、卸会社が保有する15年産米の流通在庫が高水準にあったことから、コメ価格センターの入札価格、玄米の業者間取引ともに低調なスタートとなりました。流通在庫の消化が進むにつれ入札価格は上向きとなり、16年産米の最終入札となった6月において端境期での品薄感が出てきたことにより全ての銘柄でセンター価格が上昇をいたしました。17年産米は豊作予測のなか、最終的な作況指数は全国平均で101「平年並み」となりましたが、入札価格については全銘柄平均で前年を下回る水準で推移しました。この結果、卸売価格、小売価格ともに6月の入札価格上昇が一部反映されたほかは大きな変動は見られず、前年同時期を下回る水準で推移いたしました。政府米の買入れ、集荷円滑化対策の発動による区分出荷などにより、17年産米の需給は概ね均衡していると考えられますが、消費量の減少基調、消費者の低価格志向は変わらず、依然として厳しい販売競争環境が継続しております。当社グループにおきましては、コスト競争力の強化、新規顧客の獲得、提案型の営業、適正在庫の維持に注力をいたし収益の確保に努めました。

この結果、当連結会計年度における米穀事業の売上高は78,757百万円、営業利益(全社経費控除前)は1,451百万円となりました。

飼料事業

飼料事業は、当社グループの主要販売先である鹿島地区での配合飼料生産量が鳥インフルエンザの影響により減少する厳しい状況にありましたが、糟糠類、穀類の販売が好調であったことに加え、牛専用工場への販売取組の強化、新規商品の取扱いなどにより販売数量は順調に推移いたしました。

この結果、当連結会計年度における飼料事業の売上高は2,098百万円、営業利益(全社経費控除前)は152百万円となりました。

鶏卵事業

鶏卵価格は、16年秋からの上昇を受け、上半期は堅調に推移いたしました。下半期は量販店での特売回数の減少による消費減、業務用向けの輸入品増加などの影響により軟化いたしました。6月に弱毒タイプの鳥インフルエンザが発生しましたが、鶏卵流通に大きな混乱は生じておりません。当社グループにおきましては、鶏卵価格が高値にあったことにより、家庭用の一般卵、業務用卵の販売数量が伸び悩みましたが、「カロチンE卵」などの特殊卵の販売は、一般卵との相対的な割安感、品質に対する認知度が上がったことなどの効果により堅調に推移いたしました。

この結果、当連結会計年度における鶏卵事業の売上高は7,052百万円、営業利益(全社経費控除前)は134百万円となりました。

食品事業

食品事業の主力商品である鶏肉は、上半期においては相場高にも支えられ、売上、利益とも堅調でありましたが、当社グループの鶏肉生産地である茨城県で鳥インフルエンザが発生したことにより、直営、契約農場での鳥インフルエンザ発生による直接的な被害はなかったものの、下半期においては逆風下での営業を強いられることとなりました。惣菜につきましては、製造原価削減が進まなかったこと、設備改修工事等により売上、利益ともに低調でありました。製菓等の原料向けであるもち米粉、上新粉の販売は堅調に推移し、また、植物性乳酸菌発酵技術によるたんぱく質調整米も順調に販売を伸ばしております。

この結果、当連結会計年度における食品事業の売上高は7,529百万円、営業利益(全社経費控除前)は135百万円となりました。



連結財務諸表

Consolidated Financial data

● 連結貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	平成17年12月31日現在	平成16年12月31日現在
資産の部		
流動資産	17,328,360	22,517,164
固定資産	12,730,490	13,397,122
有形固定資産	9,646,405	10,316,673
無形固定資産	389,943	519,163
投資その他の資産	2,694,140	2,561,285
資産合計	30,058,851	35,914,287
負債の部		
流動負債	17,056,338	21,183,880
固定負債	8,153,125	10,258,186
負債合計	25,209,463	31,442,067
少数株主持分		
少数株主持分	426,547	477,383
資本の部		
資本金	529,500	529,500
資本剰余金	331,500	331,500
利益剰余金	3,274,295	3,001,620
その他有価証券評価差額金	312,511	162,636
為替換算調整勘定	△ 9,733	△ 16,897
自己株式	△ 15,233	△ 13,523
資本合計	4,422,839	3,994,836
負債、少数株主持分及び資本合計	30,058,851	35,914,287

資産の部

資産が58億円減少しましたが、その主因は流動資産のたな卸資産(△26億円)、現金及び預金(△10億円)と未収入金(△5億円)の減少によるものです。

Point 1

負債の部

負債が62億円減少しましたが、その主因は流動負債の短期借入金(△37億円)と固定負債の長期借入金(△20億円)の減少によるものです。

Point 2

● 連結剰余金計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	自 平成16年10月1日 至 平成16年12月31日
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	331,500	331,500
資本剰余金期末残高	331,500	331,500
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	3,001,620	2,942,436
利益剰余金増加高	290,490	81,135
利益剰余金減少高	17,815	21,951
利益剰余金期末残高	3,274,295	3,001,620

● 連結損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	自 平成16年10月1日 至 平成16年12月31日
経常損益の部		
営業収益	95,437,969	24,891,592
営業費用	94,771,881	24,664,283
営業利益	666,087	227,309
営業外収益	340,656	88,688
営業外費用	474,459	170,960
経常利益	532,284	145,037
特別損益の部		
特別利益	155,290	81,292
特別損失	113,790	58,229
税金等調整前当期純利益	573,784	168,100
法人税、住民税及び事業税	113,013	26,689
法人税等調整額	126,547	47,068
少数株主利益	43,733	13,207
当期純利益	290,490	81,135

● 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	自 平成16年10月1日 至 平成16年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,685,758	△2,872,531
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 135,175	△ 100,266
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,768,303	2,384,391
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,064	△ 7,107
現金及び現金同等物の増減額	△1,207,655	△ 595,513
現金及び現金同等物の期首残高	3,878,930	4,474,443
現金及び現金同等物の期末残高	2,671,274	3,878,930

経常損益の部

営業収益は、主力の米穀事業が、米の価格低下により伸び悩みましたが、コスト競争力の強化、新規顧客の獲得、提案型の営業、適正在庫の維持を図り、営業利益は666百万円となりました。経常利益は、支払利息等を加減して532百万円となりました。

Point 3

特別損益の部

特別利益として固定資産売却益は116百万円がありましたが、固定資産除却損27百万円、貸倒引当金繰入額36百万円等の特別損失があり、当期純利益は290百万円となりました。

Point 4



単独財務諸表

Non-Consolidated Financial data

● 貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	平成17年12月31日現在	平成16年12月31日現在
資産の部		
流動資産	12,067,582	17,157,030
固定資産	10,239,706	10,488,766
有形固定資産	6,491,463	6,882,689
無形固定資産	309,230	421,055
投資その他の資産	3,439,011	3,185,021
資産合計	22,307,288	27,645,796
負債の部		
流動負債	12,122,680	16,220,917
固定負債	6,507,353	8,090,003
負債合計	18,630,034	24,310,920
資本の部		
資本金	529,500	529,500
資本剰余金	331,500	331,500
利益剰余金	2,528,266	2,327,002
その他有価証券評価差額金	303,221	160,396
自己株式	△ 15,233	△ 13,523
資本合計	3,677,253	3,334,876
負債及び資本合計	22,307,288	27,645,796

● 損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	自 平成16年10月1日 至 平成16年12月31日
経常損益の部		
営業収益	71,212,561	18,005,567
営業費用	70,705,845	17,867,554
営業利益	506,715	138,013
営業外収益	249,590	105,123
営業外費用	434,837	122,980
経常利益	321,468	120,157
特別損益の部		
特別利益	1,500	65,494
特別損失	13,084	48,214
税引前当期純利益	309,884	137,436
法人税、住民税及び事業税	2,414	955
法人税等調整額	89,225	22,175
当期純利益	218,244	114,304
前期繰越利益	506,206	382,286
中間配当額	16,980	—
当期末処分利益	707,470	496,591

● 利益処分計算書

(単位:円)

科 目	金 額
当期末処分利益	707,470,574
任意積立金取崩額	37,404,388
固定資産圧縮積立金取崩額	37,404,388
計	744,874,962
これを次のとおり処分します。	
利益配当金 (1株につき3円)	25,467,681
次期繰越利益	719,407,281

株式の状況／会社概要

Stock information & Corporate data

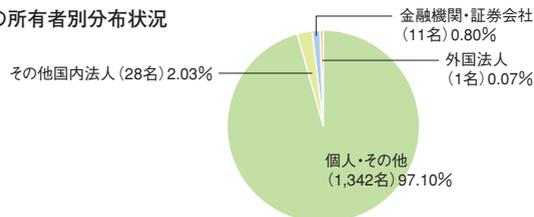
● 株式の状況 (平成17年12月31日現在)

- (1) 会社が発行する株式の総数 ————— 30,000,000株
 (2) 発行済株式の総数 ————— 8,530,000株
 (3) 株 主 数 ————— 1,382名
 (4) 大 株 主

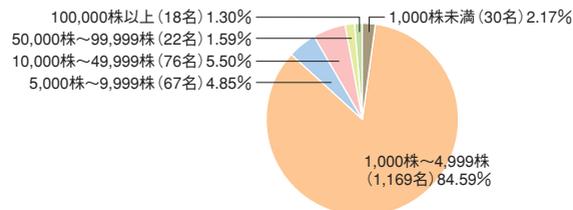
株 主 名	持 株 数	出 資 比 率
木 村 謙 三	405千株	4.74%
木 村 初 子	351	4.11
木 村 良	317	3.71
株式会社東京三菱銀行	240	2.81
稲 垣 辰 彌	227	2.66
濱田精麥株式会社	218	2.55
水 野 正 夫	209	2.45
木徳神糧従業員持株会	202	2.37
木 村 徳 兵 衛	202	2.36
農 林 中 央 金 庫	186	2.18
株式会社三井住友銀行	186	2.18

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 出資比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

■ 株式の所有者別分布状況



■ 株式の所有数別分布状況



● 会社概要 (平成17年12月31日現在)

商 号 木徳神糧株式会社
 事業内容 米穀事業、海外事業、飼料事業、
 コメ加工食品事業
 本社所在地 〒140-0002
 東京都品川区東品川二丁目2番24号
 天王洲セントラルタワー14階
 TEL 03-5479-7111 (代表)
 FAX 03-5479-6999

資 本 金 5億2,950万円

従業員数 150名

● 役 員 (平成18年3月29日現在)

取締役・監査役

代表取締役社長 木 村 良
 専務取締役 松 山 正 吉
 専務取締役 平 山 惇
 取締役 水 野 正 夫
 取締役 山 本 幸 雄
 常勤監査役 土 田 秀 三
 常勤監査役 高 橋 健 治
 ※監査役 大 川 孝 之
 ※監査役 松 下 守

執行役員

執行役員 木 村 友 二 郎
 執行役員 天 川 誠
 執行役員 伊 豫 田 直 記

※印は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役です。

● 事業所一覧 (平成18年3月現在)

本 店 東京都中央区銀座
 本 社 東京都品川区東品川
 関 西 支 店 滋賀県東近江市
 桶川精米工場 埼玉県桶川市
 本牧精米工場 横浜市中区かもめ町

株主優待のお知らせ

1,000株以上保有の株主及び実質株主の皆さまに対し、当社の米穀製品を贈呈いたします。
(年2回実施)

6月30日現在の
株主の皆さまには
一律
2,000円相当

12月31日現在の
株主の皆さまには
一律
3,000円相当



平成17年12月31日現在の株主の皆さまには、当社独自の評価システムにより厳選した最上級米「米浪漫」300g入り16袋を贈呈いたしました。

株主メモ

- 決算期 毎年12月31日
- 定時株主総会 毎年3月に開催いたします。
- 基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払いを行うときは6月30日
- 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同事務連絡先 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
(郵便物送付先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(お問い合わせ先) TEL 0120-707-696<フリーダイヤル>
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国各支店
- 公告掲載新聞 日本経済新聞

(注) 貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス
<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/koukoku.html>

(届出諸事項についてのお知らせ)

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求及び買増請求に必要な各用紙及び株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。